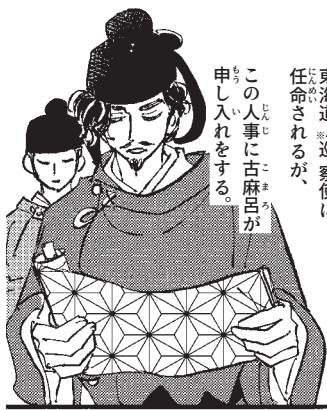


※2 大安寺・薬師寺・元興寺・弘福寺
 ※3 難儀の日までの仮の建物



大宝2(702)年12月22日、
 持統太上天皇が崩御。
 25日には四大寺で齋会を行う。

大宝3(703)年正月元日
 元日朝賀を中止し、
 持統太上天皇の殯宮を拝礼。



2日人事発表
 正六位下藤原朝臣房前が
 東海道巡察使に
 任命されるが、
 この人事に古麻呂が
 申し入れをする。



大納言殿、
 なぜ巡察使に
 ご子息の
 房前殿や

旧来からの名家
 出身の方々の
 ご子息ばかりを
 任命したのですか？

※4 行政監察官のこと。国司などの地方役人を巡視した



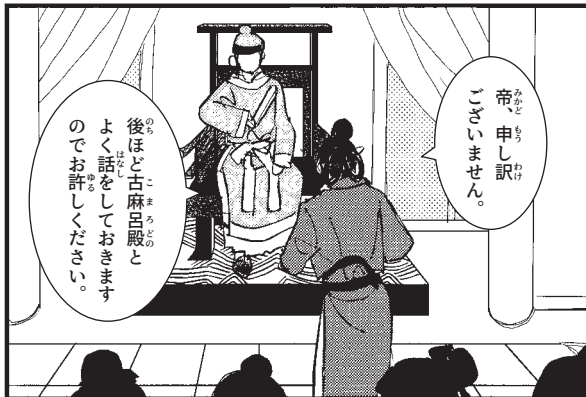
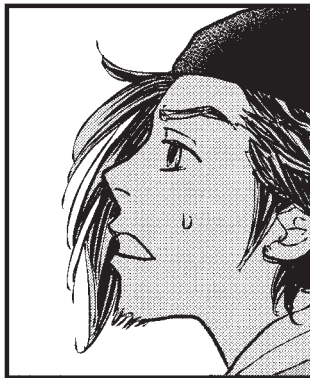
新しい政では、
 家柄に関わらず
 優秀な人材を
 登用するという
 決まりでは
 なかったのですか？



それは
 言いがかり
 ですね。

今回の人選に
 他意はない
 のですがね。

若い人材を選んだのだが、
 たまたま、その中に
 房前がいたまだけだ。



※1 支給された田を耕す人々のこと

2月15日、突然、古麻呂をはじめ伊吉連博徳、調定守老人の息子・伊余部連馬養の子が呼び出され、律令の選定報酬として田と封戸が下賜される。



封戸は一代限り、田は下賜された人の子供の代までの限定相続であった。



※2 2月の10町と合わせて30町(東京1-△63個分に相当)

その後、3月7日にも古麻呂にだけ功田20町が下賜された(期間限定なし)。



宮中の官僚や重臣たちの間では、不平等が古麻呂の発言を恐れ、買収するために数度にわたる恩賞を出しているのではと噂になった。



大納言殿

先の2月の功田下賜は他の者たちも含まれていたの、ありがたうお受けいたしますが、

今回の私だけへの下賜は意味が分かりかねます。

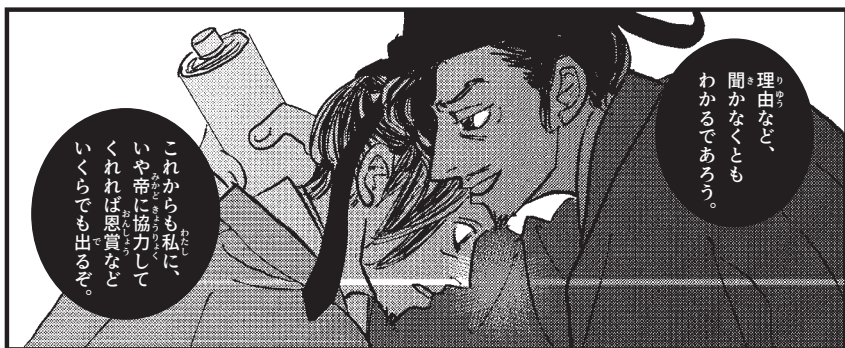




古麻呂殿よ、

何も「くれる」という
ありがたいことに
対して文句を言う
ことはあるまい。
それともまだ、
この程度では不服
とでも申すのか？

そうではありません。
私だけ何故？と
聞いているのです。



理由など、
聞かなくとも
わかるであろう。

これからも私に、
いや帝に協力して
くれば褒賞など
いくらでも出るぞ。



この国が少しでも
良くなればと思っ
お仕えているのです！

私はそのような
つもりで帝にお仕え
しているのでは
ありません！



見損なわないで
いただきたいっ！！



ではその気持ちで、
蝦夷の地にも行って
いただくのかな。



そのような心掛け、
ご立派なことだ。



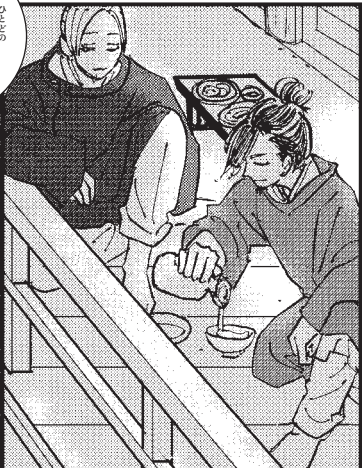
帝がお出します。
お二方ともお席に
お願いいたします。



蝦夷：
しまった！
謀られた！
冗談じゃ
なくなるから
気をつけよ！



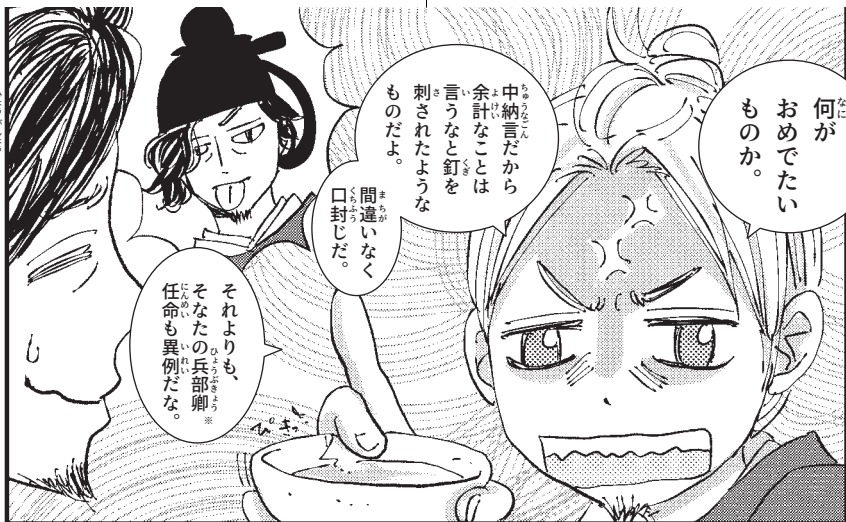
唐から
帰ったばかりで
大出世ですな。
真人殿、
中納言昇進
おめでとう
ございます。



慶雲2(705)年4月

※正四位下粟田真人が中納言に、従四位下の吉原公は兵部卿にそれぞれ任命される

※兵部省の軍事を担当した八音のひとつの長官



何が
おめでたい
ものか。

中納言だから
余計なことは
言うなど釘を
刺されたような
ものだよ。

間違はなく
口封じだ。

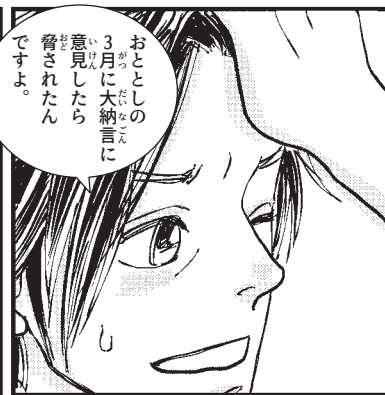
それよりも、
そなたの兵部卿
任命も異例だな



蝦夷にでも
行っていたらこ
うかな、と。

なんと？

その時、
真人様の顔が
浮かびましたよ。
こらえろと。



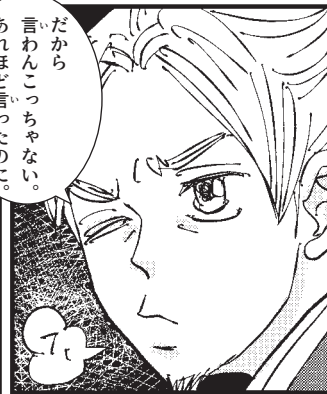
おとしの
3月に大納言に
意見したら
脅されたん
ですよ。



身内や
息のかかった者を
巡察使とし、

どうせ藤原一族の
都合のいいような
報告をさせるのが
見え見えだったので。

我慢できな
かったんです。



だから
言わんこっちゃない。
あれほど言ったのに。



それぞれ余計なことは言うな、今度やったら兵を引き連れ、蝦夷に行かすぞとの脅しか。

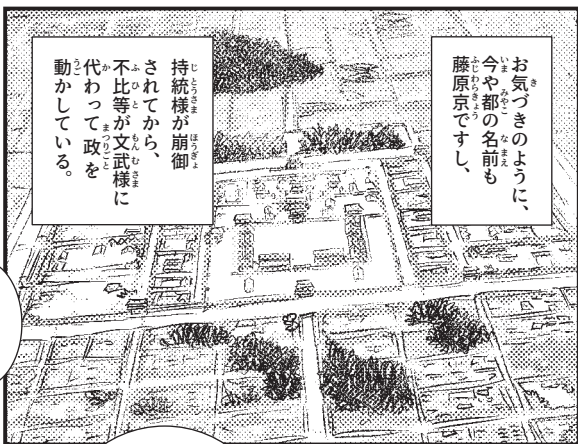


なるほど、だから私を中納言に、お主を兵部卿にしたのか。



私また単に唐に渡ったわけではない。

そこだよ。



お気づきのようですが、今や都の名前も藤原京ですし、

持統様が崩御されてから、不比等が文武様に代わって政を動かしている。



この都から新たな都へ移ってはどうかと考えているところだ。協力してくれるか。

この都はやっと完成したばかりですよ。なぜ、新しい都へ？

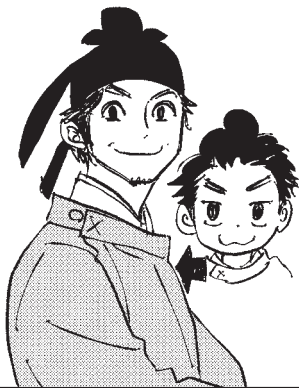




彼は関係ない
じゃないですか。

そこまで
しますか？

あの優秀な石代の今後の出世や
役所内の立場にも影響するぞ。



お主がまた意見をすると、
お主以外の一族の皆も
狙われるということだよ。



うーん…
どうすれば
いいだろう？

少し前の
ことだが…



そこまで
するのが
不比等だよ。

それだから
今の地位まで
上り詰めたんだ。



それを逆手に
取ったら
どうだろう？

石代の姓を改めて
下毛野川内朝臣に
したらどうだろう？



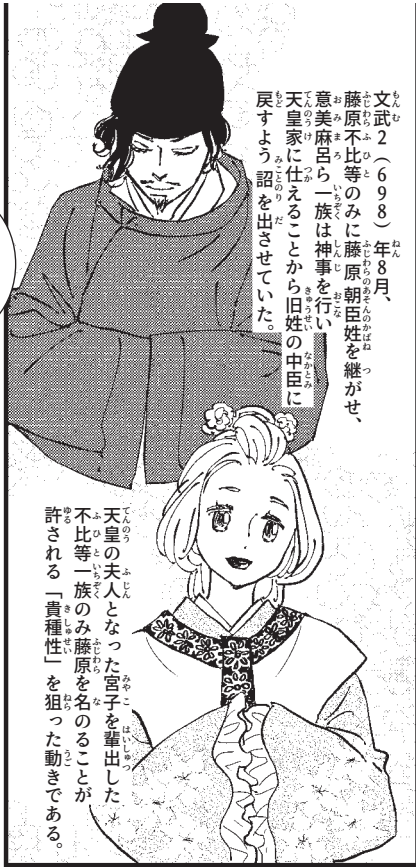
それ以外は傍系として
鎌足公の時の氏名である
中臣を名のるようになった
ことがあっただろう。

文武帝の夫人となった
宮子様を輩出した
大納言の家系のみ
藤原を名のることとし、



石代の一族は
下野を基盤と
しているように
見せて、

そうですね。
私たち一族は
都を、



文武2(698)年8月、
藤原不比等のみに藤原朝臣姓を継がせ、
意美麻呂ら一族は神事を行い
天皇家に仕えることから旧姓の中臣に
戻すよう詔を出させていた。

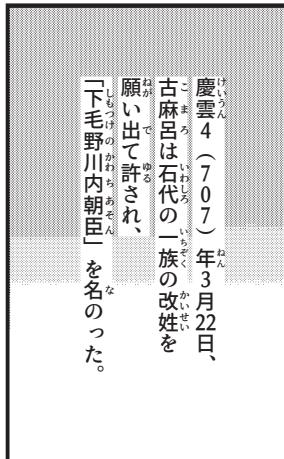
天皇の夫人となった宮子を輩出した
不比等一族のみ藤原を名ることが
許される「貴種性」を狙った動きである。



同族でありながら
あえて距離がある
ように見せれば、

最悪
万が一の時も
どちらかが残ることが
できますね。

その考え方が
良いかと。



慶雲4(707)年3月22日、
古麻呂は石代の一族的改姓を
願ひ出て許され、
「下毛野川内朝臣」を名のった。



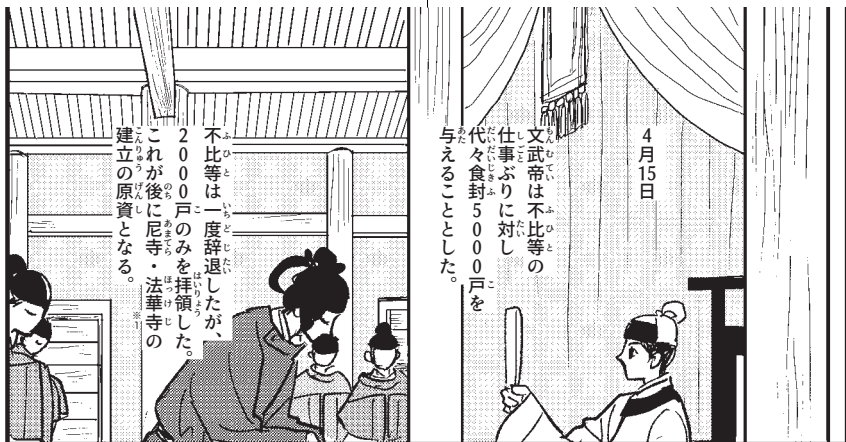
早速、
願ひ出て
みますよ。



そうすれば、
大納言からは
下毛野一族は
結束が弱いように
見えるから、

警戒心が
薄まると
考えられるよ。

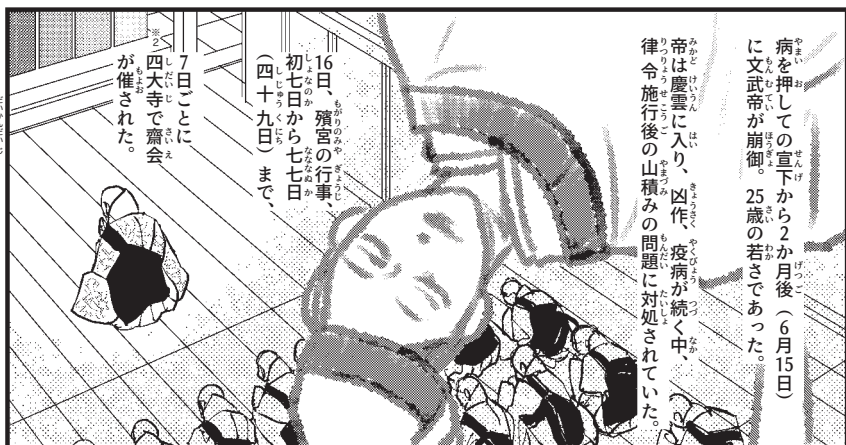
※1 不比等の死後、光明皇后がこの地を皇后宮としたが、740年藤原の乱後、この地に法華寺を建立。総国分尼寺となる



4月15日

文武帝は不比等の
仕事ぶりに対し
代々食封5000戸を
与えることとした。

不比等は一度辞退したが、
2000戸のみを拝領した。
これが後に尼寺・法華寺の
建立の原資となる。

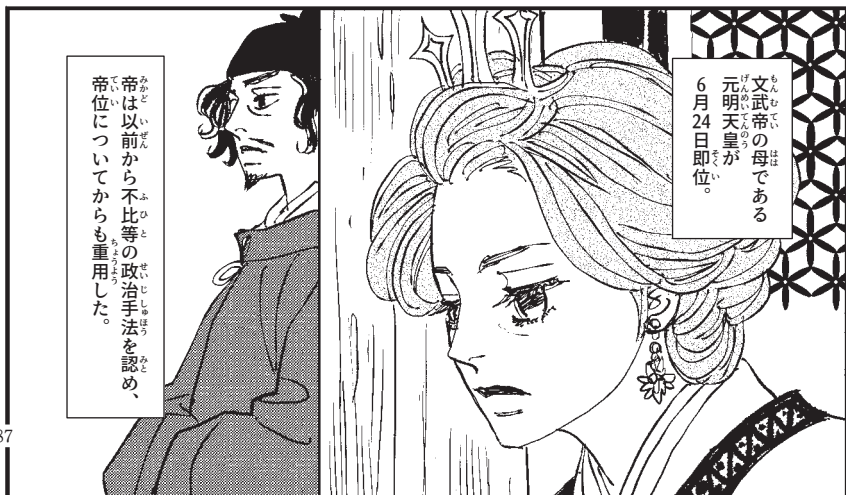


病を押しての宣下から2か月後（6月15日）
に文武帝が崩御。25歳の若さであった。
帝は慶雲に入り、凶作、疫病が続く中、
律令施行後の山積みの問題に対処されていた。

16日 殯宮の行事、
初七日から七七日
（四十九日）まで、

7日ごとに
四大寺で齋会
が催された。

※2 大安寺（大宮大寺）・薬師寺（本薬師寺）・元興寺（法興寺・飛鳥寺）、弘福寺（川原寺）のごと



文武帝の母である
元明天皇が
6月24日即位。

帝は以前から不比等の政治手法を認め、
帝位についても重用した。



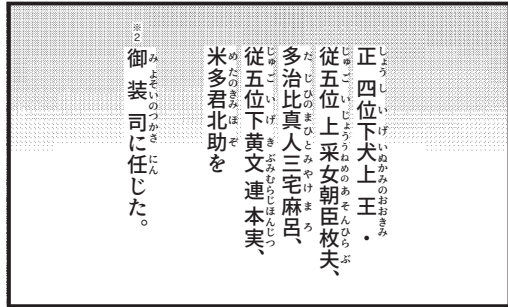
※1 文武帝の御殿(おとど)を巡る役職

従四位上下毛野朝臣古麻呂
 正五位上土師官彌馬乎
 正五位下民忌寸比良夫
 従五位上石上朝臣豊庭
 従五位下藤原朝臣房前を
 造山陵司に任じ、

※2 葬儀の装束を整える役職



古麻呂殿、
 造山陵司就任
 ご苦労様ですな。

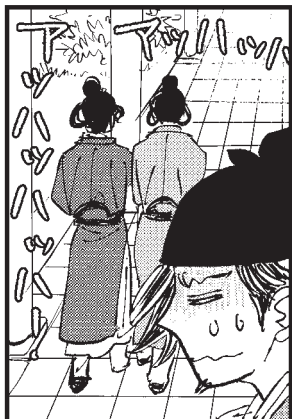
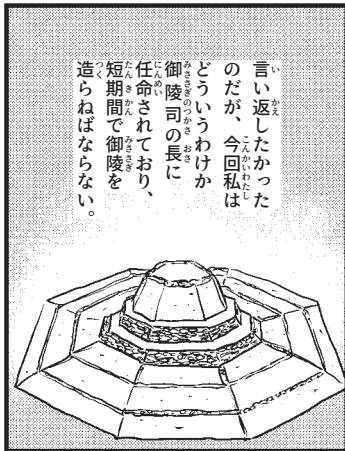


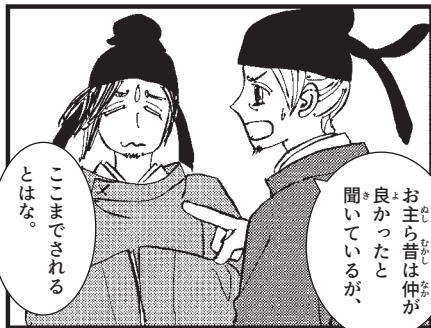
正四位下犬上王・
 従五位上采女朝臣杖夫
 多治比真人三宅麻呂、
 従五位下黄文連本実、
 米多君北助を
 御装司に任じた。



なにせ、
 東海道巡察使に
 任命された際に
 いろいろご意見
 いただきました
 からな。

わが息子房前
 のこともよろしく
 ご指導ください。



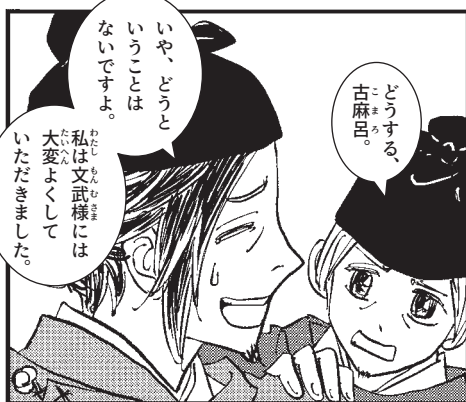


ここまでされる
とはな。

お主ら昔は仲が
良かったと
聞いているが、



良くこらえたな。
言い返したかった
ろうに。



どうする、
古麻呂。

いや、どうと
いうことは
ないですよ。

私は文武様には
大変よくして
いただきました。



亡き帝の御陵を
造るのに失敗は
許されないし、

見張り役に房前を
つけられれば
やりづらいの
目に見えるようだ。



文人、
阿比登よ。

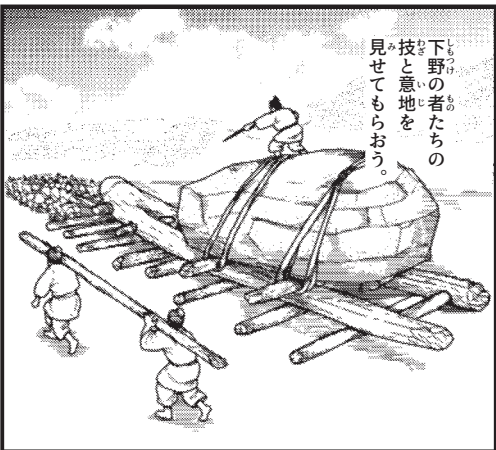
急ぎ下野に
もどり、河内
大谷の石匠の長に

「御陵を造ることを
任された。
一世一代の仕事である。
下野の職人の技と
意地を見せる時ぞ」と
伝えてくれ。



その御恩を
お返しする
ためにも、
最善を尽くして

立派な御陵を
御造りさせて
いただきます。





なにを怒っておる。
匠は働くのが務め。
匠も道具も代わりはいくらでもいるわ。

何なら藤原の匠を呼んでもよいぞ。
東国の田舎匠よりも腕は確かだわ。

ふざけるな！
藤原も元を正せばわれらと同じ東国出身
どこに住まう者でもこの国の民ぞ
差などあるものか。



挨拶もできず、人をいたわり、物を大切にできない者は人の上に立つ資格はない。

出ていけ!!

なぜ、われのような立場の者が、挨拶をしないのか？

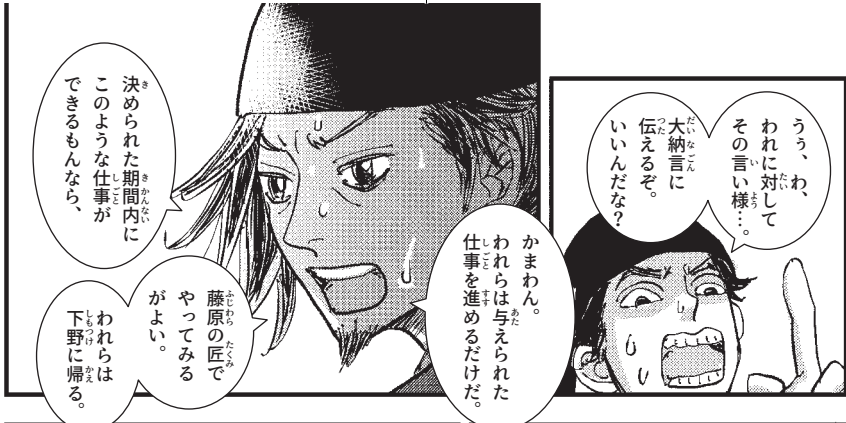


そこがおごりだと
言うているのだ！

わが祖父には、たとえ気に入らない相手でも、

お天道様に挨拶するつもりで、誰にでも公平に挨拶せよと教えられたぞ。
それに比べお前の父はどのような教えをしたのか？

お前の今の立場はお前が努力してなったものではあるまい。



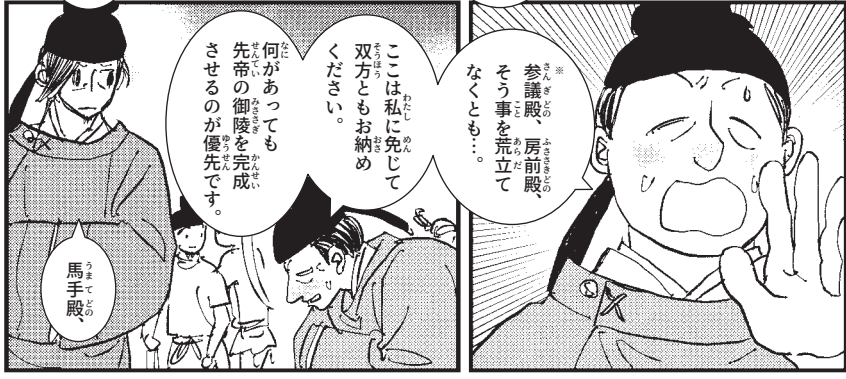
決められた期間内に
このような仕事が
できるもんなら、

われらは
下野に帰る。

藤原の匠で
やってみる
がよい。

かまわん。
われらは与えられた
仕事を進めるだけだ。

うう、わ、
われに対して
その言い様！
大納言に
伝えるぞ。
いいんだな？



馬手殿

何があっても
先帝の御陵を完成
させるのが優先です。

ここは私に免じて
双方ともお納め
ください。

参議殿、房前殿
そう事を荒立て
なくとも…

※馬場のつと

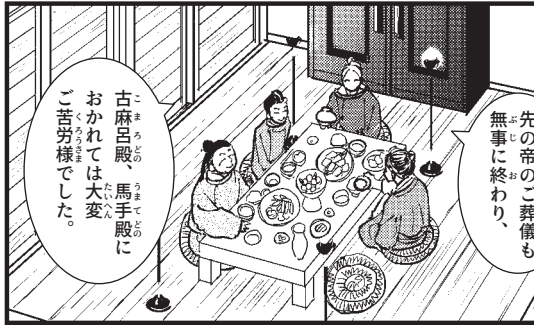


私どものような
古くから先々代の帝から
お仕えている多くの
氏族の間でも大納言家は
行き過ぎではないかと
言う者も多くなっています。

申し訳ない。
つい、カットとなって
しまった。

いえいえ、
お気持ちはお察し
申し上げます。

ここで問題を
起こすと、そなたら
にも迷惑となって
しまうな。許されよ。



古麻呂殿、馬手殿におかれては大変ご苦労様でした。

先の帝のご葬儀も無事に終わり、



聞いております。

何度か遊んで

わが子虫麻呂とも

いきました。

よく遊びにいらして

お父上に連れられて

小さい広成殿が

お屋敷に

大納言、大伴御行様の

お世話になつていた先の

私が壬申の戦の後、

お世話になつていた先の

お世話になつていた先の

お世話になつていた先の

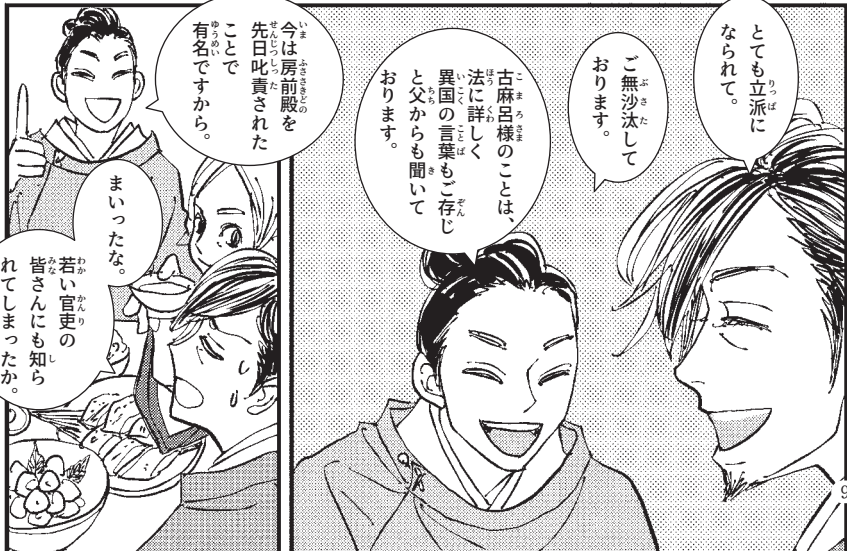
お世話になつていた先の

お世話になつていた先の



古麻呂殿はこの多治比広成殿をご存じか？

存じておりますとも。



今は房前殿を先日叱責されたことで有名ですから。

まいったな。

若い官吏の皆さんにも知られてしまったか。

古麻呂様のことは、法に詳しく異国の言葉もご存じと父からも聞いております。

ご無沙汰しております。

とても立派になられて。



そんなことも
ありましたな…

失礼ながら、
昔はお二方で馬で
数日も遠駆けされる
仲であったと。

竹馬の友のよう
だった2人が、
今や反目しあう
仲であると。

古麻呂殿、
またやっつ
らしいな。
宮中でも噂に
なっているぞ。



紀の国にも行き、
勇魚と呼ばれる
大きな魚もみましたよ。

それほど仲が
よろしかった
のになぜ？



馬で越や但馬の
国などに連れて
行ってくれました。

私が唐の方に広がる
海を見たい
というと、

年も近く
話合いました。

ご存じの通り、
私は東国の生まれ、
藤原もさかのほれば
東国出身

※1 現在の和歌山県

※2 現在の福井県敦賀市から新潟県に相当する地域、但馬：現在の兵庫県北部



彼は努力を重ねて
官位を進めたが、
そうなるからには、
権力に取りつかれて
しまった：

叔父たちのせいで
一族が没落して
しまった。



ありがとうございます。
父からも年長の方々の
お言葉は心して聞く
ようにと言われました。

苦言でも言って
いただけるうちに
華だと。



大納言の話は
もうその辺で
よからう。

広成 お主も
気をつけよ。
若くして優秀な
ことは良いのだが、
礼節を重んじるのも
人の道であるからな。



さて、
その前にだ。



いずれ東国で
働くことになるか、
唐に渡ることとなる
かもしれんぞ。

お主は出来が
良いから早く
出世して、

さすが、
先の左大臣嶋殿の
ご子息だ。
大納言の子房前
とは違うな。



私に心あるものと
遷都について
議論するようにと
ご指示いただいた。

この時も
不比等には
気をつけよ
と。



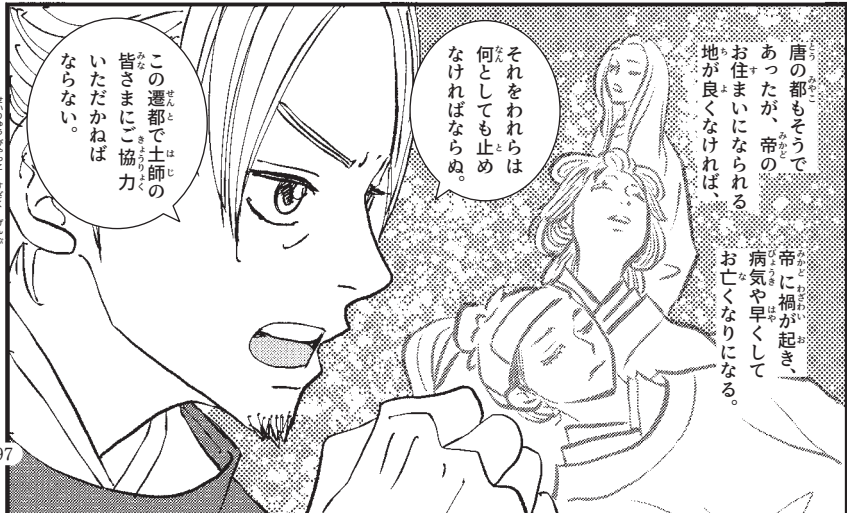
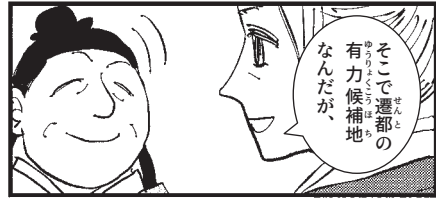
文武帝が崩御
される前に
話題となった
遷都のことだが、
いよいよ
本格的に動く
ようにするぞ。



※2 後の菅原道真などを生んだ菅原一族の発祥の地

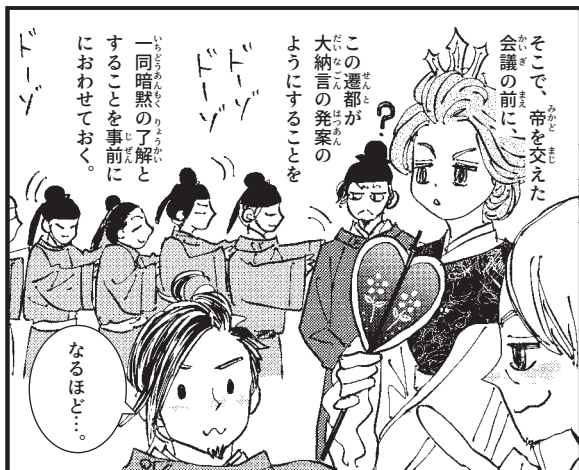
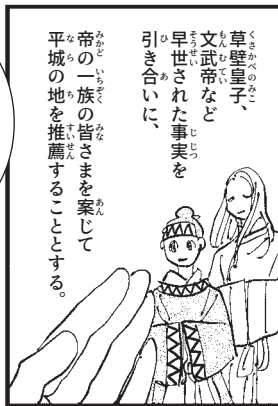


※3 地相からみて、天の四神に応じた産良の土地



なお四神とは、青龍・白虎・朱雀・玄武のそれぞれを指す







もはや議政官である
われわれにお任せに
なるはずであらう。

このような理由を
申し上げれば、

元明帝は
遷都に対して
慎重なお考えだが、



帝への
禍も消え、万民も
無事に暮らせること
意見を述べる。

大納言の深い
思し召しにより、



このところの
性急な政で、

自分への信が
なくなってきた
いることを案じて
いる大納言にとつて

百官・万民のため、という言葉を
自分の口から発したいであらう。



そうなれば、
大納言との
駆け引きとなる。



ありがとう
ございます。
平城の民も
喜びます。

そこで、
菅原の民への
移転補償などを
勝ち取ると。